

## 第22回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録

日 時 平成22年6月3日(木)  
13時30分～15時36分

場 所 学士会館3階 320号室

出席者 潮田、岡崎、長田、佐藤、高畑、谷口、竹内、辻、山崎 各委員  
鈴木、高崎、神谷、平山、生出、池田、山田 各委員  
(欠席者 内永、外村、下村、西川、永宮 各委員)

### 機構側陪席者

岩崎監事、磯部監事、江原総務部長、飯田財務部長、平峰施設部長、池田研究協力部次長  
篠原参事役、櫻井総務課長、桐原研究協力課長、中村施設企画課長、小林企画室長

### 配付資料

1. 第21回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録
2. KEK中期目標・中期計画(第2期)・平成22年度計画(骨子)
3. 平成21年度及び第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について
4. 第1期中期目標期間の教育研究の評価結果の確定に係る報告書について
5. 平成21年度決算概要について
6. 平成21年度事業報告書について
7. 平成23年度運営費交付金(特別経費)概算要求事項一覧(案)
8. 職員給与規程の一部改正について

### 席上配付資料

- ・大学共同利用機関法人：高エネルギー加速器研究機構
- ・独立行政法人、国立大学法人等の見直しの項目

議事に先立ち、鈴木議長から、平成22年4月1日付けで本機構監事に就任した岩崎洋一監事(前筑波大学長)及び磯部正昭監事(磯部公認会計士事務所代表)の紹介が行われ、今後オブザーバーとして本協議会に出席していただく旨説明があった。続いて、櫻井総務課長から配付資料の確認が行われた。

### 議 事

#### 1. 議事要録

鈴木議長から、資料1に基づき、第21回議事要録については既に電子メールで確認いただいたとおりである旨説明があった。

## 2. 報告

### (1) 第2期中期目標・中期計画及び平成22年度年度計画について

平山委員から、資料2に基づき、第2期中期目標・中期計画については、前回経営協議会で審議した結果を反映したうえで文部科学省に提出し認可されたが、KEKBの取扱いについては、正式に予算化されれば、現在のKEKB高度化という表現からスーパーKEKBとして中期計画の変更申請を行う予定である旨報告があった。また、平成22年度年度計画については、原案どおり文部科学省に提出した旨報告があった。

## 3. 協議

### (1) 平成21年度及び第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について

平山委員から、資料3に基づき、平成21年度及び第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について、機構長補佐体制強化のために機構長補佐室を設置したこと、各研究所・施設が柔軟かつ横断的な体制を取るため研究組織の見直しを行ったことなど、主な取組について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。なお、本件に関する各委員の発言は以下のとおり。

[○：委員からの主な意見・質問、 →機構からの回答]

○国家公務員と各法人技術職員の給与格差を議論するとき、研究系技術職員を事務・技術職員というカテゴリーで区別なく取扱われることで、総じて技術職員の給与水準が高いと評価されてしまうという問題があるが、新たに研究系技術職員としての「専門技師」を導入したことで、この種の問題がどう解決するのか。

→専門技師の導入は、この種の問題を是正する観点から行ったものではなく、限られた人件費のなかで、いかに技術職員の意欲向上に繋がる組織体制、職位バランスを図るかという観点で行ったものであり、これは各国立大学共通の取組ではなく、本機構の事情に応じた独自の取組である。

→専門技師の導入で、国家公務員との給与格差の問題が解消されるわけではない。

→研究系技術職員については、上位職を増やすことで給与面の改善を行っている。

### (2) 第1期中期目標期間の教育研究の評価結果の確定に係る報告書について

平山委員から、資料4に基づき、第1期中期目標期間の教育研究の評価結果の確定に係る報告書について、暫定評価（平成16～19年度対象）の結果を変更し得る平成20年度以降の顕著な取組として、共同利用の体制整備や、J-PARC共同利用実験による成果、若手研究者育成の観点から、外部資金や間接経費による任期付き助教の採用制度を導入したことなどの実績を大学評価・学位授与機構に提出する予定である旨報告があった。また、組織毎の現況分析結果について、暫定評価では素粒子原子核研究所の成果の状況が「水準を大きく上回る」のに対して、その活動を支えた加速器研究施設の成果の状況が「水準を上回る」に止まったため、平成20年度以降の加速器研究施設の顕著な成果として、KEKB加速器の積分ルミノシティ世界記録更新などの実績を併せて提出する予定である旨説明があり、審議の結果、字句の修正を行うことで了承された。なお、本件に関する字句の修正は以下のとおり。

[○：委員からの主な意見・質問、 →機構からの回答]

○資料中「平成20、21年度中期目標の達成状況報告書（案）」5頁目において「総合研究大学院大学との緊密な連携・協力により、大学院教育を行う。」と記載しているが、国立大学法人法の規定に則して「連携・協力」ではなく「連係・協力」に修正すべきである。

(3) 平成21年度財務諸表及び決算報告書について

山田委員から、資料5に基づき、平成21年度財務諸表及び決算報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(4) 平成21年度事業報告書について

山田委員から、資料6に基づき、平成21年度事業報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。なお、本日資料未配付であるが、第1期中期目標期間事業報告書について、資料3を添付資料として、資料6の事業報告書と同様のスタイルで、第1期中期目標期間に係る事業概要及び財務情報をまとめ、文部科学省に別途提出予定である旨説明があり、了承された。

(5) 平成23年度概算要求（案）について

山田委員から、資料7に基づき、平成23年度における運営費交付金（特別経費）及び施設整備費補助金の概算要求事項について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(6) 職員給与規程の一部改正について

山田委員から、資料8に基づき、職員給与規程の一部改正について、これまでの技術職員に係る期末手当・勤勉手当の役職段階別加算率については、主任技師が15%、前任技師及び専門技師、技師が10%の適用としたところであるが、「リーダーシップの役割を持つ職（主任技師、前任技師）」と「技術に基づく職（専門技師、技師、准技師、技術員）」の職位を明確にするため、前任技師の加算率を主任技師と同じ15%とするための改正である旨説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

4. 機構長報告

鈴木議長から、本機構における研究活動について報告があった。

5. 自由討論

鈴木議長から、昨今実施されている事業仕分けについて、将来的に大学共同利用機関法人等が対象となることを見据えて、現在、大学共同利用機関法人4機構で、各機構の特色及び4機構が共通して取組むべき事項等について検討を進めている旨説明があった。また、それに関連して、本機構として整理した大学共同利用機関法人の意義と他機関との関係性について報告があった。本件に関する各委員の発言は以下のとおり。

[○：委員からの主な意見・質問、 →機構からの回答]

○事業仕分けの対象となる場合、大学共同利用機関法人は国立大学法人の一部として実施されることになるのか。

→今後、国立大学法人が事業仕分けの対象となるかは不明であり、大学共同利用機関法人が国立大学法人の一部として実施されるかどうか不明である。しかし、いずれ事業仕分けの対

象になることを想定して準備を進めておくべきとの考えから検討を進めている。

- 事業仕分けの対象となった場合、その本番までの過程において、大学共同利用機関法人の意義や他機関との関係性について説明する機会は与えられるだろう。しかし、大学共同利用機関法人と独立行政法人の意義や関係性をボトムアップ型とトップダウン型という形で整理しても、事業仕分けにおいては、単に研究機能が重複しているので統合すべきという議論に終始してしまう傾向にある。どのような研究機能を国内に整備すべきかといった議論のうえで、一部を統合すべきであるとか、国立大学法人と大学共同利用機関法人がどうあるべきかといった議論に至れば良いのだが、結局、表面的な議論に止まってしまう。したがって、大学共同利用機関法人をボトムアップ型として整理するにしても、どのような研究機能を国内に整備すべきかを併せて検討すべきである。
- 事業仕分けの本質は、各研究機関の在り方そのものを見直すというよりは、政府の描いた既定のガバナンスに近付けるためのものという印象がある。国立大学との関係、世界における在り方や将来構想など、本機構としての政策をある程度検討しておくべきである。
- 事業仕分けの評価結果のなかには、管理部門を一元化することにより経費削減に繋がるのではないかとの意見もあったが、経費節減の代償として研究者の時間的負担への配慮が考えられていない。これらのことは、総合科学技術会議が十分な役割を果たしていないことから、事業仕分けが、サイエンスの発展という視点ではなく経費削減という視点から実施されているためである。

## 6. その他

鈴木議長から、経営協議会委員を対象としたJ-PARC見学会を開催する予定のため、日程調整にご協力いただきたい旨の連絡があった。

次回経営協議会は12月頃開催予定とし、あらためて事務局より連絡することとした。